

2016 年度マリンバイオテクノロジー学会 若手の会シンポジウム報告

2016 年度のマリンバイオテクノロジー学会「若手の会シンポジウム」が 11 月 25 日に東京海洋大学品川キャンパスで開催されました。この若手の会シンポジウムは 2014 年度から若手の会が企画・運営を行うことでスタートし、学会での企画ではなくシンポジウムのみで開催としては 3 回目になります。毎回、若手の会では企画のコンセプトとして「今、この先生または研究者の話を聞きたい！」という呼びかけで行っており、今回も広い領域の中から講師の先生を 2 人選出しました。1 人目は、東海大学海洋学部特任講師の浅川倫宏先生、2 人目は日本大学生物資源科学部助教の井上菜穂子先生にご講演をお願いしました。

今回、関東の上空に寒気が入った影響で前日の 24 日は、11 月ではめずらしく関東の広い範囲で雪が降りました。そのため、当日 25 日の天気が心配されましたが、風が少し冷たく感じられたぐらいで、天気の良い日になりました。会場には当日参加を含めて 75 名の大勢の参加者が集まりました。渡部終五会長の開会の挨拶に続き、浅川倫宏先生から「食品中有効成分のケミカルバイオロジー研究への展開」、井上菜穂子先生から「質量分析イメージングを用いた低分子代謝物の可視化」という演題で質疑応答を含めて 1 時間ずつ講演をして頂きました。浅川先生からは、食品中の有効成分の機能解明を目的とし、お茶に含まれるカテキンと柑橘類に含まれるフラボンの 2 つの機能性の解明についてたいへん面白く興味深くお話されました。浅川先生は 2 つの材料が静岡県では特産物として非常に重要な位置にあることと、それら成分の有機化学的合成、さらには体内動態追跡などの最新の解析法について話を展開されました。続いて、井上先生からは、生物の組織切片中の「どこ」に「どのような」代謝物が存在しているのかを解析できる質量分析イメージングについて、先生の手がけられてきた研究事例を中心にご紹介いただきました。参加者からは多くの質問があり、ご講演に対する関心の高さがうかがわれました。

今回の講演では、今年の 6 月に惜しくもご逝去されました初代マリンバイオテクノロジー学会会長宮地重遠先生を偲んで筑波大学名誉教授特命教授白岩善博先生より「宮地重遠先生を偲んで～藻類の光合成研究とマリンバイオテクノロジー～」と題し、ご講演をしていただきました。ご講演の内容から故宮地先生のご生前のご活躍とマリンバイオテクノロジー学会への熱い思いが感じられ、当会の若手として士気が高まる思いになりました。

シンポジウム終了後、東京海洋大学品川キャンパス生協食堂にて懇親会が行われ、講師の先生 3 名を含む 45 名が参加しました。当学会の副会長である早稲田大学の竹山春子先生に乾杯のご発声を頂いた後、懇親会は、ご講演の先生方を学生さんたちや企業の方々、そして先生方が取り囲み、質問攻めにした訳ではないのですが、たいへん賑わいながら盛り上がりおりました。今回の若手の会シンポジウムと懇親会を通して、参加して頂いたみなさんにとって有効有益な場になったのではないかと認識いたしました。

若手の会シンポジウム企画担当 石井 洋・糸井史朗



講演をする浅川先生



講演をする井上先生



講演をする白岩先生